

太地町

○現在実施している又は今後実施予定の取組

当町は紀伊半島の最南端にさらに突き出した半島形の町。熊野灘に面した海岸線は吉野熊野国立公園に指定された人口約 2,800 人、行政面積は 5.81 ㎢の和歌山県 30 ある市町村の中で最も行政面積が小さく、古式捕鯨発祥の地として知られ、現在も沿岸捕鯨を中心に捕鯨業が営まれている日本で数少ない地域です。

漁業は当町の基幹産業であり、捕鯨業をはじめ、定置網漁業を中心に刺し網漁、一本釣りなどの漁業を営んでおり、1 年を通じて多種多様な水産物が水揚げされております。

1) 高度衛生管理型荷捌き施設の整備

平成 20 年度に和歌山県下で初となる、高度衛生管理型荷捌き施設を整備しており、衛生面に配慮した水産物の取扱を行い、魚価の低迷に歯止めをかけている。

2) 道の駅たいじの整備

町の玄関口に道の駅たいじを整備し、太地町漁業協同組合を指定管理者として指定し、地元で水揚げされた水産物を取り扱う直売所では鮮魚や加工品を販売、併設されたレストランにおいて地元でとれた海の幸を提供し、年間 10 万人が訪れている。

今後、「さかなの日」を通じて、多くの人が訪れる道の駅たいじを中心に漁協と連携し、イベントを企画・実行し、さかなの魅力の発信に取り組んでまいります。

事例を参考に記載してください。

